

□ (小計 60点)

問一 (8点) 耳の聴こえない両親のため、手話通訳をして二人を守ること。

問二 (16点) 自分のやりたいことを我慢して、両親のために時間を使うことへの不満がたまり続ける日々の中で、炭酸飲料の蓋を開ける心地よい音を聞くと、一瞬だけ解放されるような気持ちになったから。

問三 (18点) ママンの愛情は変わることがなく、いつも自分を理解してくれていると信じていたが、木花さんを優先し、本当の気持ちを理解してくれなかったことで、裏切られたような激しい失望と、誰も自分を分かってくれない絶望を感じているということ。

問四 (18点) 耳の聴こえない父母を支えるために自分のしたいことを我慢してきた辛さを、正直に伝えることができ、また父母がその思いを受け止めてくれたことで、自分も愛されているという幸福感に包まれたから。

□ (小計 30点)

問一 (12点) オオカミは人のおおぼれにより楽にえさが得られ、人間はオオカミが近くにいることによって他の動物から身を守れるという状態。

問二 (18点) 村瀬さんが「車に乗りましょう」ではなく「そろそろ船が出ますよ」と言えば、終戦時に闇舟で脱出した経験を持つお爺さんが送迎車に乗ってくれたように、相手の背負っている歴史やものの見方に寄り添うと一緒に行動することができるようになるということ。

□ (小計 10点)

(2点×5)

(1) 必至

(2) 要領

(3) 磁器

(4) 縦断

(5) 起死回生

【出典】

□ 村崎なぎこ『オリオンは静かに詠う』

□ 伊藤亜紗・村瀬孝生『ぼけと利他』